

414
A 689

第十

千八百七十三年六月二十日
サシヤンフランシ
ス刊行毎週新聞ヨリ抄譯ス



日本公使犯罪ノ疑ヲ蒙ル事

東京ヨリ贈レル一書翰ヲトリビューニ新聞ニ載
セタリ其文ニ曰ク米國在留日本公使森有禮其
國人ノ為ノ重キ罪ヲ訴告セラレタル由ナリ但
シ右書翰ニ記スル所ニテハ同氏ノ預リタル金
高取扱方大イニ不取締ノ事ナリ且其國政府ニ

Handwritten text in cursive script, likely a signature or address, possibly including 'The Hon. Mr. ...' and 'London'.

郵年
寄四
贈月

對スル處置甚々執拗ニシテ氣尽ナリト

英吉利

六月十六日倫敦ヨリ 波斯帝本月十九日一倫

敦ニ着ス可キ趣ニテ盛ニ其待受ノ準備ヲ為シ

府廳及ヒ其他ノ公舎ハ皆美麗ニ裝飾セリ

同月十七日同所ヨリ 魯ノ太子其妃ト共ニ

シドリシガムニ於テ英ノ太子及ヒ其妃ヲ訪問

ス

伯靈ヨリノ書狀ニ曰帝維廉ノ病氣ハ不日ニシ

テ全快ニ至ル可キ趣ノ由

英國コルンウォールノ海岸ヨリ 西班牙ニ至ル

迄第二ノ海底傳信線ヲ通シタレハ電報ノ便利

大ニ宜シク其賃銀モ更ニ減シタリ

同月十八日同所ヨリ 昨夜府下ノ建築工丁等

衆會シテ以來一時間毎ニ半ペチツクノ増賃

銀ヲ得ント決定シ若シ棟梁等之ヲ承諾セザレ

ハ一同休業ス可キ由

今夕波斯帝接待ノ為メ盛ニ準備ヲ為シタリ女

王モバルモラルヨリ歸リテヴロンドソル城ニ着

ス可シ

佛蘭西

六月十三日巴里ヨリ 佛ノ政府共和政治過激

党ノ魁首アシリ、ロシホルラ新カレドニア島

一流謫スルヲ決シタル由

前年巴里ノ内乱ノ時共和政治過激党中ノコム

タセーナル者ワンドーム衛ノ大鉄柱ヲ打倒シ

タル首謀ナリシカ今般會計宰相ヨリ其罪ヲ劾

シテ更ニ其大鉄柱ヲ新建シタル費用ヲ同人ヨ

リ償ハシメントスル由

六月十四日倫敦ヨリ 倫敦新聞局へ別段ノ報

告ニ曰クチエールハガムバツト數回會議シ終

ニチエールト激烈党ト相親ムニ至レル由

日耳曼

六月十三日伯靈ヨリ 皇帝維廉今以テ不快ニ

シテ養生ノ為ノ當分全ク政務ヲ聞クナルヲ要

ス可シト

米國ナマウール又ヒンムヒスニ於

テコレラ病ノ流行スル事

六月十八日テンチッシー邦ナスウールヨリ 當

地ニ於テコレラ病ノ流行今以テ衰ヘス府人之

ラ恐レテ他處ニ去ル者甚々多シ既ニ本日モ車
夫三人市街ニ斃レ又因徒九十人程同病ニ罹リ
既ニ死スル者三十人アリ其中八人ハ白人二十
二人ハ黒人ナリ因テ高業ニ殆シト廢絶シ貿易
ノ為メニ大ニ障碍トナレリ

同月同日ラシチツシ一邦ノムヒスヨリ 本日ハ
半月以來初メテ快晴ノ天氣コレラ病モ追々衰
ハル模様ナリ先ツ此分ニテ四五日モ快晴ナリ
ナハ此病全ク熄マル可シ但シ本日ハ埋葬十五
アリテ中十二ハコレラ病ノ為メ死スル者ナリ

同月同日ラシチツシナチヨリ 本日コレラノ為
メ死スル者二人アリ蓋シ本年當府ニ於テ此病
ノ徴ヲ見ハシタルノ初ナリ中一人ハ一日間ニ
死ニタリ

日本在留公使ノ事

六月十八日新育ヨリ 華盛頓ヨリ別段ノ報告
ニ判事ビンガム氏ハ來九月迄ハ日本ニ向ヒ出
立セサル可ク又デロング氏ハ同氏ノ到ルマテ
日本ニ滞在マス書記官ヲ代理ト為シテ歸國ス
可ント

魯人キバニ勝タル新聞

六月十八日聖彼得堡ヨリクングラットヨリノ
來書ニ云フ嘗テ裏海ノ東岸マンジヤクヨリ發
程セシラレボルグノ一隊五月廿六日コシャトリ
ニ於テ其勢ヲ整頓シ翌日キバ人ノ勞ヲ襲ヒ之
ヲ攻取リシカハキバ人南方ニ敗走シ魯人マル
ジツト若マテ追撃セシナ此所ニテキバ人援兵ヲ
得テ防戦セントシタリ然ルニ魯兵モ亦援兵ヲ
得六月一日大戦アリシカキバ人更ニ敗北シ其
若モ敵ニ奪ハレ残兵回都ノ方ニ退キタリト又

曰クタスキンドヨリ發シタル東方ノ隊ヲ率テ
シ魯ノゼ子ラールカウフマンキバノ都ヨリ終
カニ二十五里ノ所ニ於テアミユダリア河ヲ涉
リタリト

波斯帝倫敦ニ着シタル新聞

六月十八日倫敦ヨリ波斯帝本日國王ノ遊船
ニ乗リ甲鉄艦數艘之ヲ警衛シテ午後二時半英
國ドナルニ來着セシガドナルノ市中ハ每家皆
美麗ニ飾ラ作シ見物人ノ群集實ニ夥シ叔波斯
帝着岸ノ時兵船ヨリ祝砲ヲ發シ壹丁堡公及ヒ

プリンスタアサー帝ヲ接待シ然ル後トブルノ
市尹及ヒ府ノ官員等帝ニ對シ祝詞ヲ述ヘシカ
帝之ヲ答ヘテ英國ノ地ニ入ルヤ否其待遇ノ厚
キヲ之ヲ感謝シ且恰ニ親友ノ中ニ居ルカ如ク
覺ユル旨ヲ述ヘタリ然ル後帝英ノ皇族ト共ニ
別段奏輒ノ汽車ニ乘リ六時ニ倫敦ニ入リ
ロスノ鐵道館ニ着シタリシカ鐵道館ニハ旗章
及ヒ鮮花ヲ以テ飾リ壇ノ上ニハ猩々緋ノ羅紗
ヲ敷キタリ當時折悪シク大雨ナリシカ鐵道館
近傍ハ見物人山ヲ成シタリ儲波斯帝汽車ヨリ

下タル時英國太子、プリンスタック、プリンスタリ
スチアン、カムブリゲ公等來テ其安着ヲ祝シタ
リ本日ハ生憎天氣都合至テ悪シカリシカ波斯
帝ノ通行路ハ市街及ヒ窓牖ヨリ屋根ノ上ニ至
ルマテ見物人充滿シ皆波斯帝ヲ見テ祝呼ノ聲
ヲ發シタリ今夕ハ帝マルボロ宮ニ於テ英國
太子ノ饗應ヲ受クル由ナリ
サンフランシスコハ世界ノ大都會中
ニテ人身健康ノ益最大ナルノ說

新育府ノ人口表記録官ドクトルチャールズ、ルコ

セル同府ノ人身健康事務局ノ報告書中ニ記
 入タル為メ作りタル表ニ據レハサンフランシ
 スウハ亜米利加洲ノ大都會中人身健康ノ為メ
 最大益アルノミニ非ス世界ノ大都會中ニテモ
 亦第一タルコトヲ知ル可シ但シ亜米利加洲大都
 會十六箇所ニ於テ千八百七十二年間人口千人
 毎ニ死者ノ数左ノ如シ

サンフランシスコ	十七	セントルイス	二十
シンシシナテ	二十	ハルチモール	廿五
ピラデルヒア	廿六	ケケゴ	廿七

又歐洲都會廿七箇所ノ人口千人毎ニ死者ノ數
 左ノ如シ

ブルックリン	廿八	ボストン	三十
ニューラルリンズ	三十	子ワリク	廿一
ニューヨーク	廿二	サバンナ	廿六
モントリオール	廿七	メムビス	廿六
ワルパライソ	六十六		

ジェーソック	十三	ジニーバ	十九
バースル	二十	倫敦	二十一
巴里	二十一	リバプール	二十七

ア ラ ー グ 利 地	フ ロ レ ン ス 利 太	ボ ロ グ ナ 利 太	ロ ッ ト ル ダ ム 荷 蘭	ニ ー ス 佛	ゼ ノ ア 利 太	ミ ラ ン 利 太	レ ゴ ル ン 利 太	マ ン チ ャ ス ト ル 英	リ ー ヅ 英
四 十 一	三 十 五	三 十 二	三 十 一	三 十 一	三 十 一	三 十	三 十	廿 八	廿 七
ミ ュ ー ニ ッ ク 日 耳 曼	ロ ー マ 利 太	ナ ー プ ル ス 利 太	ベ ル リ ン 序	ア ー ブ ル 仏	ス ト ッ ク ホ ル ム 典 瑞	ウ サ ー リ ン ナ 利 地	ウ エ ニ ス 利 太	ダ ブ リ ン 愛 爾 蘭	グ ラ ス ゴ ウ 蘇 格 蘭
四 十 一	三 十 六	三 十 五	三 十 二	三 十 一	三 十 一	三 十 一	三 十	廿 九	廿 八

此表ニ就テ見ル時ハ瑞西ジエリククヲ以テ健康
 適スル第一ノ地ト為スト雖モ此府ハ人口僅
 カニ二萬ニ過キサレハ敢テ大都會ト稱スルニ
 足ラス此一府ヲ除ク外サンフランシスコヲ以
 テ歐米各國都會中健康ノ為第一ノ地トス又
 亞西亞洲ノ諸大都會ニ於テハ死者ノ数ヲ知ル
 ノ方法備ハラスト雖モ其數ハ歐米ノ都會ニ過
 レト必然ナリ又倫敦及ヒ巴里ノ二府ハ共ニ人
 口千人毎ニ死者ノ数二十一人ナルカ是レ下水

ノ法度能行届キタルニ因リ死者ノ数少ナキノ
証ト為スニ足ル但シ此西都府ハ恐ラソハ世界
中水ノ法度ノ最モ行届キタル地タル可ク往キ
ニ水ノ逸流セサル沼澤ニ等シキテ^{イムス}及ビ
^{セイ子}ノ二河モ方今ハ相應ニ清潔ナル流トナ
リ嘗テ此ヲ去リシ魚類モ近來復ビ歸リ来ルニ
至リ此西府共ニ死者ノ数大ニ減シタルハ全ク
下水ノ法ノ行届キタルニ因ルヲ知ル可キナリ
又方今^{サンフランシスコ}ハ世界ノ大都會中健
康ノ為ノ第一ノ地タルハ府ノ官負更ニ盡カシ

テ猶一層健康ノ地ト成スト我輩ノ期望スル所
ナリ但シ^{サンフランシスコ}ノ市中ハ高低アリテ
直チニ海ニ接シタレハ下水ノ法度ヲ設クルニ
最モ便利ヨク之ニ比スレハ倫敦ノ如キハ不潔
ノ水ヲ三四回^{ボム}グニテ上ケ十五六里下流ノ
所ニ送リテ^{テムズ}河ニ洩流セシムルノ不便
アリ然ルニ^{サンフランシスコ}ノ下水ノ却テ倫
敦ニ及ハサルヲ遠キハ頗ル歎ス可キ事ナリ而
ノ同府ノ人民人身ノ益タル夏月ノ海風ノニ
依頼スルニ過キハ市街ヲ清潔ニ為シ下水ヲ疏

通シテ永ク世及第一ノ健康ノ地タル譽ヲ失ハ
サル可キナリ

米國ニ在ル支那人ノ説

ナリホルニアノ人民ハ近頃更ニ支那人ヲ忌ム
ノ念ヲ生シ後米支那人ノ其國ニ入り來ルヲ許
サ、ルノ説アリ又米人支那人ヲ苦メントスル
ノ念甚ク盛ニシテ怯憶ナル支那人大ニ之ヲ懼
ル蓋シサンフランシスコノ人民ハ往キニ支那
人ヲ使役スル賃銀ノ少キヲ以テ頻リニ支那人
ヲ雇入レシカ當今ニ至テハ其地方ノ害トシテ

大ニ之ヲ忌ムニ至レリ既ニ千八百七十年ノ人
別調ノ時サンフランシスコニ在ル支那人ノ數
二万六千ニ幾カリ其中多クハ男ニシテ稍財本
ナル者ハ相應ニ活計ヲ立ルト雖モ十ニ八九ハ
貧乏ニシテ見苦シキ茅舎ニ住シ又本國ニ於テ
清潔ヲ尚グ可キ教育ヲ受ケス且人煙稠密ノ地
ニテ生長シタルハ狹隘ノ所ニ集合シテ住ム
習慣アリテ家屋ノ不潔且混雜ナルヲ實ニ甚シ
今此ニ其模様ヲ言フニ一夥ノ支那人嘗テ米人
ノ住マシ家屋ニ入りテ職業ヲ営メントスル時

ハ先ツ第一ニ相當ノ高ナフル部屋ノ中程ニ更
ニ一箇ノ牀板ヲ設ケ一室ヲ二室ト為シテ怡マ
蜂巢ノ如ク狹隘ノ場所ニ群居シ一向平氣ニテ
勞動ス又支那人十人程ニテ洗濯ヲ為シ或ハ卷
烟艸ヲ卷ク職業ヲ為ス時ハ心ス其牀板下ニ眠
ル者更ニ十人餘アリテ夜ニ入りテハ孰レモ己
ノ持場ニ退キテ博変ヲ為シ眠ニ就クナリ故ニ
支那人ヲ止宿セシムル家ハ大約米人ノ既ニ見
捨テタル敗屋ニシテ地牀ヨリ天井ニ至ル迄恰
モ棺ノ如キ卧床ヲ作り支那人其中ニ入りテ安

眠シ敢テ意トセサルヲ猶清麗快活ノ室中ニ在
ルカ如シ而シテ此蜂巢ノ如キ卧床ハ或ハ地窖
ニ在ルモノアリ或ハ數層ノ家屋ノ最モ高キ場
所ニ在ルモノアリテ其卧床ノ在ル所ニハ少シ
モ新鮮ノ大氣ヲ入ラシメスシテ支那人ノ臭氣蒸
々トシテ此レニ滿チタリ
抑支那人ノ奇癖ト謂フ可キハ多眠ヲ好ムト豚
尾ノ毛髮ヲ帶ルトニアリテ半ハ絲半ハ毛タル
長尾ヲ其踵ニ垂ル、ヲ以テ支那國ノ記彌字為
シ縱令人ノ為ノ或ハ蹴ラレ或ハ唾サル、ト雖

モ能ク耐忍スル支那人モ其尊キ豚尾ヲ人ニ握
ラル、時ハ忽チ憤怒ヲ發シ中華ニ對スル不敬
ナリト謂フ而シテ又支那人ノ為メ大氣ノ通セ
サル狹隘ノ室又ハ夫ノ長キ豚尾ヨリモ更ニ尊
シトスル所ノ者ハ死シテ其祖先ノ地ニ埋葬セ
ラル、ヲ欲スルニアリテ如何ニ貧窮ナル支那
人ト雖モ其骨骸ヲ本國ニ送ルノ設備ヲ為サ、
ル者ナシ但シ支那人ノ毎日行フ所ノ禮式及ヒ
吉凶ノ前兆等ヲ定ムル法教惑迷ノ一野番法ヲ
名ケテ風水ト曰フ而シテ其何等ノ者タルヤ他

國人ノ能ク審カニ知リ得可キニ非スト雖モ此
風俗ニ由レハ支那人ノ外國ニ在ル者必ス其骨
骸ヲ中華ノ國ニ埋ムルノ設備ヲ為ス可ク若シ
然ラサレハ其魂永ク地上ヲ徘徊シテ其安息ス
ル所ヲ知ラサル可シ故ニ支那人ハ縱令死ヲ恐
レサルモ其骨骸ノ祖先ノ地ニ至ラサルヲ恐ル
、ト甚シ蓋シ此習慣ハ上ハ天子ヨリ下ハ賤民
ニ至ルマテ皆之ニ深着セサル者ナク用向アリ
又ハ雇入ラレテ外國ニ赴ク支那人ハ若シ外國
ニテ死スル時ハ其骨骸必ス本國ニ歸ル可キヲ

約束シ常ニ此約束ニ違ハサルヨリシテカリホ
ルニア洲ヨリ支那人ノ骨骸ヲ其本国ニ送
実ニ夥ク當今カリホルニアト支那トノ通商航
海ニ於テ頗ル重大ナル一箇條トス然ルニ近頃
カリホルニアニ於テハ支那人ヲ忌ムノ念盛
ナルニ至リシニ依リ其更ニ米國ニ來ルヲ防ク
為ノ支那人ノ三箇ノ性情ヲ抑制スル法律ヲ立
テ支那人ノ睡眠スル室ニハ必ス五百尺立方ニ
下ラサル大氣アル可キヲ定メ又獄ニ入りタル
者ノ豚尾ヲ切斷シ且骨骸ヲ其本国ニ運送スル

ヲ禁セントノ建議アリ是レ支那人ヲ抑制シテ
其米國ニ來ルヲ防クノ一奇法ナル可シト雖モ
公明正大ナル米國共和政治ノ大奇趣ニハ敢テ
適合セサル者ト謂フ可シ

